News Release

2026年11月4日

各位

Nexgen Japan株式会社
株式会社フジテックス
株式会社セルフィット

改正物流効率化法への対応に向け、Nexgen Japan・フジテックス・セルフィットの3社が協業。「SCM経営診断」と「CLOダッシュボード」の開発に着手

上流工程からのSCM改善と、特定荷主に必須となる「荷待ち・荷役・積載率」の可視化&改善を一気通貫でサポート。3社の「現場改善力・配送ネットワーク・AI技術」を融合した次世代ソリューションを開発

Nexgen Japan株式会社（本社：神奈川県横浜市、代表取締役：大野 有生、以下 Nexgen Japan）は、株式会社フジテックス（本社：東京都中野区、代表取締役社長：一森 雄介、以下 フジテックス）および株式会社セルフィット（本社：東京都新宿区、代表取締役CEO：宇佐美 典也、以下 セルフィット）と連携し、企業のサプライチェーンマネジメント（SCM）における現状診断および改善に向けた実証実験（PoC）を開始いたしました。

「2024年問題」をはじめとする物流現場のひっ迫や、改正物流効率化法への対応など、企業においてSCMの見直しは急務となっています。本取り組みは、3社の知見を連携・融合することで、企業の物流・SCMの現状と課題を可視化し、改善施策の検討から実行支援までを一貫して支援するサービスを実証します。

■ 協業の背景と目的：専門3社の知見を結集し、机上の空論で終わらない「現場起点の可視化」へ

サプライチェーン全体の課題を解決するには、拠点の見直しからラストワンマイルの配送に至るまで全体を俯瞰した最適化が必要です。しかし、単一の企業や一般的なシステムのみで、現場の実態に即した仕組みを作るのは容易ではありません。

そこで今回、物流の「現場課題の改善」「配送インフラ」「AIを始めとするIT技術」という各領域でそれぞれ異なる独自の強みと実績を持つ3社が手を取り合い、現場のデータと経営判断を直接結びつける協業体制を構築しました。

- **Nexgen Japan（AI・高度なデジタル技術力）：**
  ロジスティクス分野に特化したAI開発力とデータ分析基盤を軸に、現場に散在する複雑なデータを経営層が直感的に判断できるシステムへと構築します。

- **フジテックス（現場課題の抽出と改善）：**
  約40年にわたる物流・産業分野での実績をベースに、資材・設備・運用面におけるリアルな現場課題を見抜き、実際に現場で運用できる改善策を導き出します。
- **セルフィット（配送インフラと実務の知見）：**
  次世代配送インフラの構築やラストワンマイル領域の現場ノウハウを強みとし、荷主側だけでなく配送現場の制約や動きまで見据えた実践的な分析を可能にします。

これら3社の知見を掛け合わせることで、データ上の数値追求にとどまらない「現場の実情に合った分析」を行い、経営層が素早く判断を下せる実用的な仕組みを作ります。

■ 本プロジェクトにおける取り組み

本実証実験（PoC）では、主に以下に取り組みます。

1. AIによるSCMの経営診断と改善策の提示
サプライチェーン全体を診断し、ボトルネックとなっている箇所を特定。実際の現場データに基づいた現実的な改善策を提案し、運用の定着まで現場に伴走します。

2. CLO（物流統括管理者）向けダッシュボードの開発
経営層がSCMの現状をひと目で把握し、意思決定に活かせるダッシュボードを開発・検証します。物流現場の多様な状況を踏まえて、様々なケースに対応できる柔軟なデータ収集の仕組みを整え、複雑な物流データをわかりやすく整理します。

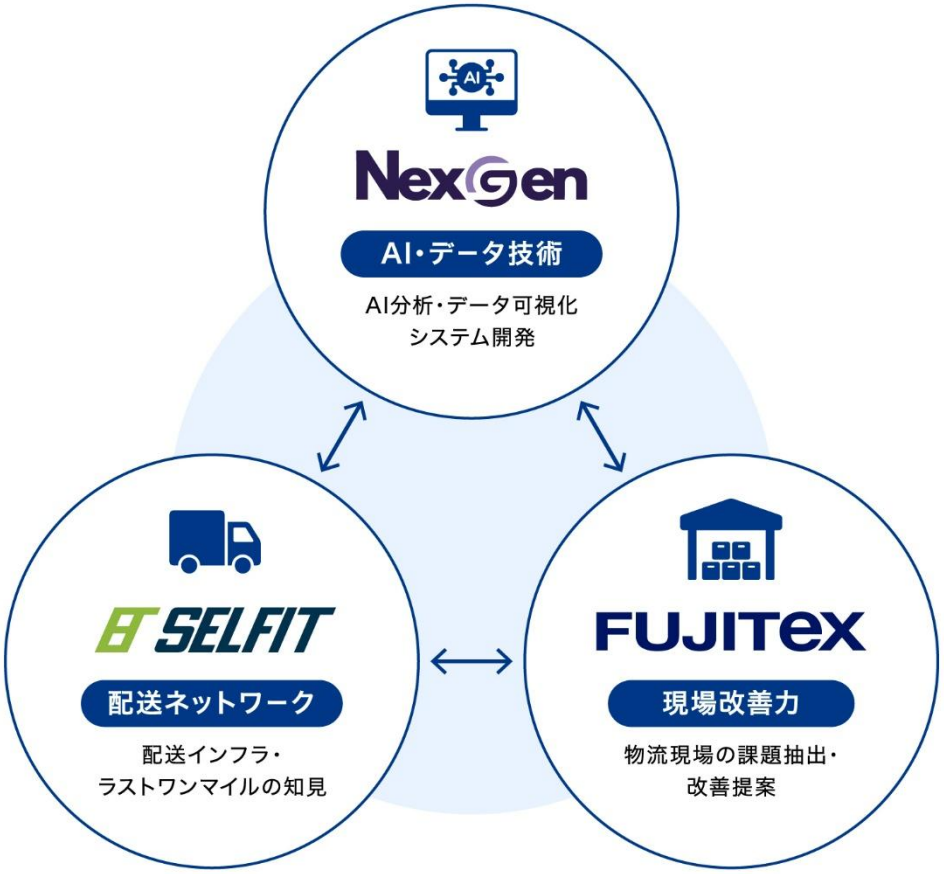
- **改正物流効率化法に対応した指標の可視化**
  改正法で把握が求められる「荷待ち時間」「荷役時間」「積載率」の3指標に加え、自社特有の経営課題に応じた数値を可視化する仕組みを整えます。
- **定期報告書の作成サポート**
  改正物流効率化法で提出が必要となる定期報告に向け、データの自動集計から報告書作成までの負担を減らす体制を整えます。

■ 本プロジェクトで解決を目指す主な課題

本協業体制および実証実験（PoC）は、サプライチェーンにおいて以下のような課題を抱える企業様の課題解決を支援するものです。

- **物流現場のブラックボックス化：**第三者に物流を一括して委託してきた結果、物流現場の実情、日々の業務の状況が把握できなくなっている。
- **全体最適化の遅れ：** 拠点間や部門間でデータが分断されており、サプライチェーン全体の現状把握や連携が取れていない。
- **法改正対応への不安：** 改正物流効率化法で求められる「荷待ち・荷役・積載率」の可視化や報告業務に対し、具体的な手法や着手手順が定まっていない。

■ 各社コメントおよび3社の役割分担



Nexgen Japan株式会社　代表取締役・物流AIアーキテクト　大野 有生

「Nexgen Japanは、SCMとAIを組み合わせたシステム開発を通じて、物流という社会インフラを次の世代へつなぐことを目指しています。法改正への対応も、報告書づくりで終わらせたくありません。荷待ち・荷役・積載率の数字は、改善に向けた話し合いの材料です。既存システムに散らばったデータをAIで整え、原因を発荷主・着荷主・運送事業者の立場ごとに示すことで、関係者が同じ数字を見て改善策を決められる状態をつくります。まずはフジテックス様の現場で使える形にし、セルフィット様とともに開発を進めてまいります。」

株式会社フジテックス　代表取締役社長　一森 雄介

「物流の2024年問題や法改正は、商社である当社自身にとっても切実な課題です。本協業による『CLOダッシュボード』やSCM経営診断の開発は、まず自社の物流課題を解決する実践的な取り組みであり、その知見をお客様の課題解決へ直結させるものです。2社の専門知見と当社の現場改善力を融合し、お客様の経営課題を同時解決する『ソリューションプラットフォーマー』を目指してまいります。」

株式会社セルフィット　代表取締役CEO　宇佐美 典也

「セルフィットは、長年にわたり、配送の立場から物流を支えてきた株式会社セルートの経験を背景に、次世代の物流問題の解決を目指すスタートアップです。物流業界は、人手不足、燃料費の高騰、EC化・小口化の進展、脱炭素化など、様々な課題を抱えています。本協業を通じ、配送の枠組みを超えてサプライチェーン全体を見える化し、お客様と一緒に21世紀を支える物流の在り方を考え、実践していくための一歩としたいと考えています。」

■ 今後の展開

本プロジェクトのファーストステップとして、株式会社フジテックスの物流現場におけるデータを利用した実証実験（PoC）および効果検証を進めております。

2026年12月からは、SCMの経営診断およびCLO向けダッシュボードのための「物流DXアセスメント」を開始すべく、準備を進めております。共にPoCに取り組んでいただける企業を募集いたします。

■ 会社概要

【Nexgen Japan株式会社】

- **会社名：** Nexgen Japan株式会社（ネクスジェンジャパン）
- **代表者：** 代表取締役 大野 有生
- **所在地：** 神奈川県横浜市西区浅間町1-4-3 ウィザードビル402
- **事業内容：**SCM・物流分野におけるAIシステム開発、アプリ提供、人材育成
- **URL：** https://nexgen.co.jp/

【株式会社フジテックス】

- **会社名：** 株式会社フジテックス
- **代表者：** 代表取締役社長 一森 雄介
- **所在地：** 東京都中野区中野2-24-11 住友不動産中野駅前ビル20F
- **事業内容：** 販促事業、環境事業、物流事業、エネルギー事業、GX事業、他
- **URL：** https://fjtex.co.jp/

【株式会社セルフィット】

- **会社名：** 株式会社セルフィット
- **代表者：** 代表取締役CEO 宇佐美 典也
- **所在地：** 東京都新宿区高田馬場1-31-18 高田馬場センタービル2F
- **事業内容：**DIAq（ダイヤク） の運営およびITを駆使したマッチングによる物流および総合生活支援サービス
- **URL：** https://selfit.inc/

■ 本件に関するお問い合わせ先

Nexgen Japan株式会社

- **E-mail：** contact@nexgen.co.jp
- **お問い合わせ：** https://nexgen.co.jp/contact